

松島本渡線埋蔵文化財（井辺遺跡第34次）

発掘調査 現地説明会資料

平成26年2月9日（日） 午後1時30分～3時
和歌山市教育委員会
公益財団法人 和歌山市文化スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

井辺遺跡は、紀ノ川の南岸、福飯ヶ峯丘陵の北西に広がる沖積地に位置します。遺跡範囲は、南北約0.5km、東西約1.0kmの範囲に広がっています。これまでの調査では、弥生時代から古墳時代の住居や井戸、お墓などが見つかり、集落のなかの様子が明らかとなり始めています。

1. 調査の概要

- (1) 遺跡名：井辺遺跡
- (2) 所在地：和歌山市津秦地内
- (3) 調査主体：和歌山市 建設局 道路部 街路課
調査指導：和歌山市教育委員会 文化振興課
調査機関：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
- (4) 調査期間：平成25年10月31日～継続中
- (5) 調査面積：約2640㎡



第1図 周辺の遺跡分布図

2. 調査の成果

調査では縄文時代晩期後半の土器棺墓（土器を棺として使ったお墓）や弥生時代後期末から古墳時代前期の集落（堀立柱建物、溝など）、お米を作った古墳時代前期の水田が見つかりました。

縄文時代晩期後半の土器棺墓は、煮炊きを使う土器（深鉢）を棺として穴に埋めていました。この穴の大きさは直径0.5mです。井辺遺跡の周辺では、調査地から北東1.5kmの花山丘陵西側にある鳴神貝塚隣接地（鳴神IV遺跡）で縄文時代晩期中頃のお墓が発見され、また、南東に500m離れた岡崎縄文遺跡では、縄文時代後・晩期頃の貝塚が見つっています。井辺遺跡では、縄文時代晩期の遺構が検出されたのは初めてです。

縄文時代晩期の遺構が鳴神貝塚や岡崎縄文遺跡のように丘陵裾部にあたる地点ではなく、当時の紀ノ川河口に近く沖積低地にあたる今回の調査地で見つかったことは、縄文時代晩期における海岸線や地形の成り立ちを考えるうえでも重要な発見と言えます。



第2図 井辺遺跡の古墳時代初頭の様相

そして弥生時代後期末から古墳時代前期の集落には、周囲より地盤の高い自然堤防上に掘立柱建物やゴミ捨ての穴、集落を区画する溝など昔の人々が生活を営んだ痕跡が残されていました。特に建物の柱穴には柱材が残り、炭化木や土器を多量に出土する穴などが見つかりました。この自然堤防の北側に広がる低地部では、井辺遺跡では初めて古墳時代前期の水田が見つかりました。水田は網目状に広がる畦畔（畦）によって区画された長辺約 5.0m、短辺約 4.0mの小

さく狭いもので、調査では現在 15 区画程度確認しています。このような水田が見つかることは、県内でもめずらしいことです。

これらの集落や水田は、縄文時代以降この井辺の地に生活の糧を見出した先人の足跡であり、今回の調査では、井辺遺跡集落内部の様相について新たな知見を得ることができたと考えます。



写真1 2区、3区北半
全景

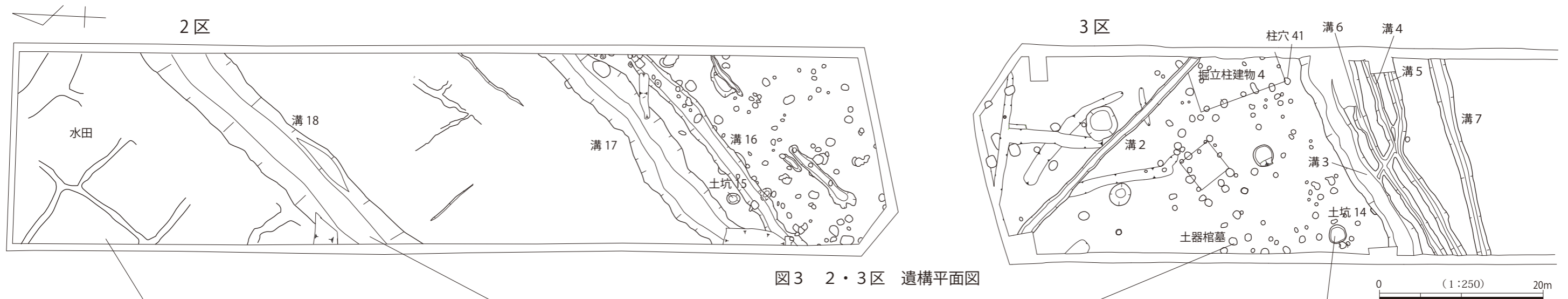


図3 2・3区 遺構平面図



写真2 2区 水田



写真3 2区 溝18
全景



写真4 3区 土器棺墓



写真5 3区 土坑14 土器・炭化木材
出土状況